

みんなで話そう
米沢の
未来

第7回「議会報告会・意見交換会」

生きた政策提言づくりに向けて

1月27日(土)、第7回「議会報告会・意見交換会」を置賜総合文化センターにおいて開催しました。
これまで、各常任委員会がそれぞれ調査・研究するテーマを設定し、市長に対し政策提言等ができるよう活動してきましたが、その内容について市民の皆様からもご意見をいただきたいと考え実施したものです。
今回は、参加者一人ひとりからのご意見をいただく手法として、グループワーク形式をとりました。

総務文教常任委員会

テーマ

「移住・定住促進について」

民生常任委員会

テーマ

「安心できる地域医療と
いきいきと健康に暮らせる
まちづくりについて」

産業建設常任委員会

テーマ

「地域ブランド戦略について」

民生常任委員会では、視察で訪ねた栃木県小山市「地域医療を守り育てる条例」・岐阜県下呂市「日本一ローコストな病院づくり」・愛知県東海市「健康長寿のまちづくり」・三重県桑名市「新桑名市総合医療センター整備事業」の報告の後、参加者の皆さんと意見交換を行いました。
いただいたご意見としては、現在の市立病院の待ち時間の改善、駐車場や薬局との距離・導線の改良、医師不足等対策などのほか、相談体制の充実が病院の信頼に繋がるといったものがありました。
市立病院の建てかえに関しては、「たとえ土地代が高くついても、アクセスの向上を重視し交通便利性の高い立地を望む」との意見がありました。

非常に大きくなっている現状に理解が広がり、医師や看護師の働きやすさ向上に取り組む重要性や、限られた医療資源を活かすための医療ネットワーク活用などの認識を共有できたと思います。
また、「かかりつけ医」や、「かかりつけ薬局」を持つことの大切さと、二次医療機関である市立病院の役割についての市民理解を広げ、正しい受診行動に繋げることが大切であることも共有できました。
市立病院と三友堂病院との医療連携に関する協議により、新病院完成後は急性期医療と回復期医療に分けた両病院の役割が明確となり、限られた医療資源の効率化は一定程度図られますが、既に現場の努力だけで地域医療を守る時代ではありませぬ。

当委員会としても、今回いただいた意見を参考に、一人ひとりの市民の皆さんの受診行動の変化や、健康づくりの取組みが、地域医療を守ることに繋がるとの理解を広げる政策に取り組んでまいります。



非常に大きくなっている現状に理解が広がり、医師や看護師の働きやすさ向上に取り組む重要性や、限られた医療資源を活かすための医療ネットワーク活用などの認識を共有できたと思います。
また、「かかりつけ医」や、「かかりつけ薬局」を持つことの大切さと、二次医療機関である市立病院の役割についての市民理解を広げ、正しい受診行動に繋げることが大切であることも共有できました。
市立病院と三友堂病院との医療連携に関する協議により、新病院完成後は急性期医療と回復期医療に分けた両病院の役割が明確となり、限られた医療資源の効率化は一定程度図られますが、既に現場の努力だけで地域医療を守る時代ではありませぬ。

産業建設常任委員会

本市では昨年、本市では米沢ブランド推進室を立ち上げ、『鷹山公のDNA「挑戦と創造」の力で、次の米沢をつくる。』をブランディングコンセプトとし、新年度から本格的な事業に着手します。
なぜ、地域ブランドの推進が必要なのかということになりますが、米沢には全国に誇れる数々の名産品があります。
しかしながら、個々の取組みとなつていて、各業界が連携した横断的なブランド推進ができておりませぬ。また、㈱ブランド総合研究所が公表している地域ブランド調査によると、平成27年は96位、平成28年は62位と全国的な知名度は今ひとつの状況です。

昨年、念願の東北中央自動車道が開通し、今年4月には「道の駅米沢」が開業します。これらを契機として、米沢の魅力を発信し、全国的な知名度のアップと地域産業の更なる発展、新産業の育成を図っていく必要があります。ターゲットを明確にした商品の生産や販路を開拓し、高付加価値、高収入の商品販売の促進すること、地域ブランドの向上と首都圏を中心とした来訪者や交流の増加、企業立地の推進からつながる雇用の拡大、そして定住人口の増加を図っていくことが地域ブラン



総務文教常任委員会のグループワークでは、雇用に関して「雇用の場の確保、働き口を増やすことが先決だ。そうでないと生産年齢人口も増加しない」「若い人が働きやすい米沢市にしたい」「インターンシップは、学生の定住につながるもので充実・拡充するべきだ」などの意見がありました。
移住・定住に係る情報発信については、「現に移住した方がいるので、市民に対して、移住した人の感想や情報を発信して、市民の意識を高めるのが大事ではないか」「米沢で学んでいる学生に米沢の魅力を発信してもらおう事ができないか」等の意見がありました。
交通機関の充実については、「暮らしやすい街でない」と、移住・定住は図れない。そのためには、市民バスやデマンド交通などを充実し、車がなくても生活できる都市にしなければならぬ」との意見がありました。
空き家対策については、「空き家バンクを設置すべきだ」「移住者に活用してもらいたい」「戸建てだけでなく、アパート、マンションなどの空き部屋をシェアハウスとして活用できないか」等の意見がありました。
移住者との交流については、実際に移住された方のご意見として「地域の方々と交流できる場が欲しい」



とのご希望や、「移住者の話を聞ける場を大学・短大に設けてどうか」との意見がありました。
ライフスタイルに関しては、移住・定住に関わらず、市の将来像、課題といった意見が多く、学生に残ってもらうことや、若い人が住みやすい、子どもを育てやすいと感じてもらうための施策を展開することなどの提案がありました。
人とのつながりに関しては、「現代は横の繋がりが少ないので、婚活イベントなどを充実させて、米沢に戻るきっかけづくりが大事だと思う」との意見がありました。
当委員会としては、今回のご意見を参考に、人口減少社会が深刻化している現状において、本市として取り組むべき課題や計画の方向性など、政策提言を通して本市の移住・定住がより良く進んでいくよう努めてまいります。

ドを推進する一番の目的となります。

産業建設常任委員会のグループワークでは、米沢の食、自然、歴史、産業といった魅力について再確認し、その発信方法や育成、振興の手法についても様々な意見をいただくことができました。

今後は、当委員会としても、地域ブランドの推進を重要課題と位置付け、いただいた意見を基に調査研究を重ねて、より効果的な事業となるよう政策提言に努めてまいります。
また、この地域ブランドの確立は行政の力だけではなし得ません。より多くの市民の皆様が参画できる仕組みを構築できるよう努めてまいりますので、更なるご指導ご協力を心よりお願い申し上げます。
全国に誇れる地域を共に築いてまいります。